

ダンサーの生活状況の実態把握及びダンスにおける職業ビジネスモデルの提案

Investigate the actual situation of dancer's living conditions, And Proposal of the business model in dance

1K04B072-1

城所 恵美

指導教員

主査 中村好男先生

副査 杉山千鶴先生

目的

近年、ダンスというスポーツは人気を増しているように思う。しかしながら、人々の中で一つのスポーツとしてしっかり認識されているかという、そうでもないのが現実ではないだろうか。そして更に、職業としてダンスの道に進むことも就職をするといった意味ではあまり現実的ではないという見方をする人の方が多いように思う。その理由としては、収入の安定性が低いということが考えられる。ダンスパフォーマンスをして収入を得ることも、ダンス指導者として収入を得ることも、それだけで生計を立てている人はほんの一握りの人であり、多くの人は他にアルバイトなどをして、掛け持ちで生計を立てているイメージがある。そこで、実際のダンスを取り巻く環境がどうなっているか実態を調査することによって、現在のダンサーの生活状況を把握する。生活状況を把握することによって、今後ダンサーという職業の確立に向けて少しでも安定した収入が得られるための課題を明らかにすることを本研究の目的とする。更に、ダンスを供給する側を確立することによってダンスの普及にもつなげていきたい。

方法

一つのダンスクラブチームに対し、質問紙調査を行う。調査の内容は、ダンスを職業とすることへの意識調査及び実態調査である。調査を実施したのは、社会人クラブチームに所属するメンバー、年齢 16 歳以上の女性約 100 名である。期間は、2007 年 8 月 22 日水曜日から 8 月 26 日日曜日の計 5 日間で、その中でレッスンにきた人に対し調査を依頼する。このチームはチアダンス界の中ではトップクラスのチームであり、様々なイベントやテレビ出演等を果たし、大会ではほぼ毎年優勝しているほどの実績のあるチームである。トップチームの環境が良くないと、これからチアダンスを普及していくにあたって難しいと思うため、今回はこのチームを選んだ。

結果

質問紙の配布数は 46 部であった。その中での回収部数は 18 部、回収率としては 39, 1%にとどまった。平均年齢は、 $22 \pm 2, 85$ 歳であった。

ダンサーの生活状況の実態把握において一番重要となる、1ヶ月あたりの収入についての設問では、回答者に学生が 8 人と約半数を占めていたので 5 万円以下が最も多かったが、ダンス関係の仕事をしなからアルバイトなどを行っている人は多くて 15 万以下の収入に対し、会社勤務の人は最低でも 15 万から 20 万以下の所に位置していた。この結果を見ると、お金の面においては、やはり固定給料をもらっている人に比べてダンス関係の仕事で生計を立てていくのは不安定だと言える。

また、ダンスを職業とすることに関して疑問や不安に思うこと・要望等についての意見をまとめると、やはりダンスを職業とすることに対して不安を感じている人が多く、働くための制度や組織がしっかりすることを願っている人も多いことが分かった。

考察

質問紙調査の結果により総合的に見ると、ダンスを職業にすることに対して不安に感じている人、出来たら職業にしたいが生活の面で厳しいという現実から職業にすることを諦める人などが多いように思った。ダンスを職業にする人達が少しでも安心して生活していけるような環境・制度を作ることが重要な課題となっていくと感じた。そのために必要なものとしてアート・マネジメントの理解がある。その上で、実際にどうしたら安定した職業になるのかを考えると、文化組織推進・支援団体の充実、また労働組合のような全国のダンスを職業とする人が加入できる団体を作る、社会保険等生活を保障してくれる福利厚生的なものを受けられるようにするために、ダンス事業を扱う会社を設立する、などが挙げられ、これらをビジネスモデルの提案としたい。